

福祉サービス第三者評価 評価結果

対象事業者: 森のエルマー保育園

横浜市港北区新吉田東 3-6-33

運営主体: 特定非営利活動法人 森のエルマー保育園

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2~3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類・項目別評価結果	5~12 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	13~18 ページ
利用者本人調査分析	19~20 ページ
事業者意見	21 ページ

平成 18 年 5 月 2 日公表

実施機関: 特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	特定非営利活動法人 森のエルマー保育園		
報告書作成日	2006年4月10日	評価に要した期間	約3ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:05年12月1日～06年1月27日</p>	<p>事前に資料で自己学習の後、職員会議で趣旨を説明。学習会・交流会を経て、すべての職員が自己評価を記入。</p> <p>各個人が記入したものをもとに、意見交換しながら1項目ずつ確認・合意。</p> <p>それを持ち寄り各クラスリーダー、事務担当、施設長で協議・合意して集約。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:06年1月13日～06年1月25日</p>	<p>利用者保護者へ事業者から手渡し。</p> <p>同封の返送用封筒にて、評価機関宛匿名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 06年2月23日 第2日 06年2月26日</p>	<p>第1日午前中は各クラスの保育観察、昼食は幼児クラスで。午後は、4、5歳児の聞き取り調査、書類調査、および園長・主任に事業者面接調査を実施。</p> <p>第2日午前中は、保育観察。(主に公園での交流保育と0、1歳児の戸外遊び)の観察。昼食は乳児クラスで。午後は、栄養士と保育士3名に面接調査の後、園長・主任・事務職員に事業者面接調査を実施。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 06年2月23日 第2日 06年2月26日</p>	<p>観察調査は、戸外(畑・山)および園内で実施。</p> <p>聞き取り調査は、4、5歳児クラスの15名を3グループ分け、各グループ20分間、玄関ホールで実施。先生は同席せず。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

森のエルマー保育園は、1984年に無認可保育所として開設。その後横浜保育室となり、2004年4月より認可保育園として、特定非営利活動法人森のエルマー保育園が運営しています。定員は60名で、産休明け保育の0歳児から在籍しています。最寄り駅からはバス利用で、小さな町工場も点在する住宅街に位置しますが、近くには竹林や池などの自然が豊富にあります。園舎は1階が幼児クラス、2階が乳児クラスとなっており、0歳児クラス以外は、オープンな造りになっています。

高く評価できる点

1、自然豊かな地域社会の中で健やかに育まれる子どもたち

約21年前の開設当初より、地域と共に子育てする保育園を目指してさまざま努力を続け、今では地域社会にすっかり溶け込んでいます。現在も、毎年行われる味噌づくりや「エルマーを支える会」主催のバザーなどを通して地域住民と交流しています。また、地域で行われる季節の行事に子どもたちと参加するなど、地域社会の一員としての活動に積極的に取り組んでいます。畑・山への道中では行く先々で声を掛け合うなど、和やかな交流が見られます。

園舎内部は、漆喰壁、無垢の杉材の使用など環境に配慮した造りになっていますが、園庭はアスファルトの駐車スペース程度しかありません。しかし、近隣住民の厚意により、図書室を備えた外遊びの広場を園舎斜向かいに確保し、午前・午後、1日2回の外遊びを可能にしています。

園舎から少し歩いて住宅街を抜けると、自然が豊富にあり、2月には梅やふきのとう、てんとう虫、カモなども楽しめます。その先の上り坂の向こうには竹林や広い畑が広がっています。持ち主の厚意により、作物が植わっていない畑地では、子どもたちが自由に遊べます。幼児も乳児も、真夏と雨の日以外は週に2~4回ほど出掛け、思い切り身体を動かしています。自然以外には何も無い山や畑で、子ども達は走り回ったり、相撲をとったり、穴を掘ったり、虫を捕まえたりと、生き生きと遊んでいます。

2、伝統的な食生活を基本にした食育の取り組み

給食メニューは園の方針として、日本の風土や日本人の身体に適した和食を中心としています。例えば調査日第1日の昼食は、煮込みうどん、ひじきの煮物、おさつサラダ。おやつはあわ・きび・ひえの入った七分米のおにぎりといじめたらの干物でした。家族アンケートに回答したすべての保護者が給食メニューの充実満足しており、また、子どもたちも給食は美味しいと答え、好きなメニューはお汁、ご飯、うどん、芋、ししゃもなどと答えています。

食材にも気をつけ、素材・調味料共、自然食品・自然農法の野菜・有機栽培米を使用しています。職員は、生産者と交流する集いに参加し、現地へ農業体験ツアーにも行っています。また、生産者が園を訪れて子どもたちと昼食交流をして、生産者と消費者（子どもたちと職員）が顔の見える関係を築いています。旬のものを中心に用いる食材は、ジャガイモ・大根・にんじん等の野菜については皮付きのまま調理するなど、食材を丸ごと生かす調理を心掛けています。栄養士・調理員は、ほぼ毎日食事時に各クラスを訪れ、食事の様子を見ながら子どもたちに声を掛けています。

子ども達は落ち着いた雰囲気の中、しっかりとよく噛んで食べ、多くの子どもが積極的におかわりし、残す子どもほとんどありません。確かな食生活が強い身体的基础を作っているのでしょう、積極的な歯磨きは園生活に取り入れていませんが、子どもたちに虫歯はありません。また、長時間保育の時間帯に園で補食（夕食）をとる子どもを中心に、風邪を引きにくい、引いても治りが早いなどの健康面のよい成果が見られると園は言います。子どもたちの穏やかさもまた、食育の取り組みの成果のひとつと言えるでしょう。

3、長年にわたる積極的な地域子育て支援

開設当初より、交流保育「エルマーとお日さまの会」を続けています。それは毎週月曜日の9時半から11時に、幼児クラスの子どもたちが遊ぶ近くの公園で行われ、多い日には30組近くの親子が参加しています。

園児たちが公園に着くと、年少の子どもは主に砂場で、年長児は広場で遊び始めますが、保育士は砂場近くにシートを広げ、園から持参してきた絵本や乳児用おもちゃをシートの上に置き、赤ちゃん連れに対応できるよう準備します。親子連れは三々五々やって来て、園児が遊ぶ砂場に入り込み、一緒に遊び始めます。保育士は親子連れに声を掛け、毎月発行している「エルマー地域子育て新聞」を母親に渡します。関心を引く子育て情報が載っているため、受け取った母親はその場で目を通して見ます。熟練保育士は時々さりげなく母親のそばに行き、相談事がないか声をかけます。しばらくすると皆で集まり音楽に合わせて体操し、絵本の読み聞かせの後、解散となります。

こうして毎週展開される公園での交流保育は、保育園の子どもたちにとっても保育士にとっても、今ではごく自然な日常のひとつとなっています。ですから訪れる親子にとっても、気負いの不要な場として気軽に入り込んでいるように見受けられます。必要に応じて相談に乗ってもらえる場でもあり、家庭で子育てする母親にとって、安心できる場のひとつになっています。

改善や工夫が望まれる点

1、組織体制を整え、保護者および職員の意見・要望を園運営に反映させる努力を

園長は、開設以来「一人ひとりの子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う場となる保育園」を目指し、保育士として保育の実践を続けながら、保護者や地域社会と力を合わせて園の運営に力を注いできました。

職員が、健康でいきいきと仕事に取り組めるように、一人ひとりの個性が生きるポジションを各職員に与えるよう園長は努めています。約2年前に認可保育園となってからは、意思決定の方法をこれまでのトップダウン方式からボトムアップ方式へ転換すべく、職員に対して会議のあり方やニーズを聞き取るアンケートを実施しています。また、実務の権限を主任に委譲し、幹部会議を構成するなどの取り組みもなされています。しかしまだ、様々な意思決定の場に各職員の意見が取り入れられる仕組みとしては、十分でないように見受けられます。

利用者家族アンケートの職員の対応についての問い「不満や要望を気軽に言えるか」「不満や要望への対応」に不満を抱く保護者が各々3割近くおり、要望への返答がない、反論される、などの声もあります。また、「昼寝や休息への対応」については約2割の保護者が不満を持っています。これは主に園の方針として、4月から小学校に入学する5歳児についても一斉午睡を続けることに対する不満です。しかしながら、園の保育目標や保育方針についてはほぼすべての保護者が賛同しており、保育内容についての満足度も高いことから、保護者は園への信頼を基に、更に意見や要望を聞き入れる姿勢を求めていると思われます。

園は今、約21年の歴史を経て、また、次代の組織運営に備え、より柔軟な姿勢で運営に臨む組織体制づくりが求められています。園の良さを生かしつつ、更に時代の変化に伴う保護者や職員の意見・要望にまずは耳を傾け、共感する姿勢を持ち、園運営に反映させることができるような体制を作ることが望まれます。

当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。

評価領域ごとの特記事項

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権への配慮

- ◇ 「どの子どもも健康で健やかに育つように」という基本方針の下、園児一人ひとりの個性を尊重しながら、やさしい心と丈夫な身体を育てる保育を行っています。
- ◇ 職員は、子どもを「さん」付けて呼び、静かにていねいに接しています。
- ◇ 職員は虐待についての研修を受けており、日々の生活の中で子どもの身体状況を観察し、早期発見につなげるよう関心を持って接しています。
- ◇ 守秘義務については新入職員研修の折に書類を渡し周知しています。個人情報保護に関するガイドラインは現在作成中です。

2、利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援

- ◇ 保育計画は、地域の実状や保護者の就労状況にも配慮して作成し、柔軟な対応を心掛けています。
- ◇ 保育計画に基づいて、子どもの年齢毎の指導計画を作成しています。また、全園児について、月毎の個別指導計画を立てています。
- ◇ 十分な広さの園庭はありませんが、園のすぐ近くの広場や少し先の畑や山で、子ども達は存分に外遊びを楽しんでいます。
- ◇ 子どもたちの発達段階に合わせて、おもちゃや道具が取り出しやすく配置されています。
- ◇ 安心・安全な季節の食材を用いて、日本の風土や日本人の身体に適した和食を提供しています。
- ◇ 乳児クラスは3~4人の小グループを作り、家庭的な雰囲気の中で、安心して過ごせるように配慮しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 健康管理・衛生管理・安全管理等のマニュアルがあり、それに則った運営が行われています。
- ◇ クラス毎に、リーダー、サブリーダー等の役割別の1日の業務が整理されています。
- ◇ 苦情対応マニュアルがあり、意見箱が設置されています。行事後にはアンケートを取って、保護者の意見や要望を聞いています。
- ◇ 保護者の意見・要望をサービスの向上に活かす体制づくりが今後の課題です。

4、地域との交流・連携

- ◇ 地域の一員であることを意識して、積極的に地域と交流しています。
- ◇ 地域の行事に参加する他、バザー、味噌作り、ひな祭り等の行事に、町内会や地域の高齢者を招待しています。
- ◇ 地域の方の協力により、子ども達が自由に使える畑や広場を確保しています。
- ◇ 交流保育「エルマーとお日さまの会」を毎週月曜日に公園で実施しています。21年間にわたり、地域の親子の育ちを支援しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 基本理念は、玄関掲示板と保育室に掲示され、日々実践されています。利用者家族アンケートによると、保護者の大半が共感を示しています。
- ◇ 園長のリーダーシップの下、各職員の適正を見極めた職員配置がなされています。
- ◇ 園運営に関する意思決定にあたっては、保護者への十分な説明と、組織をあげて取り組む体制づくりが課題です。
- ◇ 中長期計画の具体的な作り込みが急がれます。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 職員は、種々の研修会に積極的に参加して保育技術の向上に努めています。
- ◇ 外部研修としては保育団体合同研修会、全国給食セミナー、わらべ歌共同勉強会をはじめ、市主催の研修会へも積極的に参加しています。内部研修としては、ソーシャルワークや絵の学習会を定期的に行っています。
- ◇ 週案会議やクラス会議でサービスの見直しを行っています。
- ◇ 人材育成のビジョンに基づく、計画的な人材育成が課題です。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/fukushi/hyouka/index.html#qg> を参照してください。









「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある



評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。






評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念は「児童福祉法に基づき、一人ひとり子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来を作り出す力を創り出す力の基礎を培う場となる保育園を目指します」という利用者本人を尊重するものであり、各保育室と玄関に掲示してあります。 基本理念は、毎月の職員会議において職員全員で唱和して、その内容についての理解を深めるとともに、日々の保育に活かされています。 保育計画は、地域の実状や保護者の就労状況も考慮して作成されており、柔軟に対応するように心がけています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 入園前に保護者、子どもの面接を実施し、その記録は日々の保育に活かされています。 入園前の家庭での様子を把握するために、入園1週間前からの子どもの一日の様子を連絡帳に記入してもらい、入園後の保育の参考にしています。 乳児だけでなく幼児の個別指導計画もあります。 週案会議は、乳児クラス、幼児クラスの保育士が交代で出席し、命に関すること 気になる子どもの様子 週の中で気になること、良かったこと 今までやっていなかったことでやって良かったことの4項目に分けて評価、見直しを行っています。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理マニュアルがあり、清掃会議を開催し清掃シフト表を作成、職員全員で保育室内外の清掃に取り組んでいます。 夏・冬で照明の色を変えるなど、子どもたちが落ち着いて過ごせる環境づくりを心がけています。特に、1階保育室は、漆喰壁・無垢の杉材の床板・木製ブラインドの使用等、健康にも配慮したつくりになっています。 保育室は、1階が幼児クラス、2階が乳児クラスとなっており、0歳児クラス以外はオープンなつくりとなっていて、各クラスは棚等で仕切られています。 0、1歳児は、家庭に近い環境で過ごせるように3～4人をひとつのグループとして、保育士と共に落ち着いて一日を過ごすことができるような配慮をしています。

<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人ひとりの個別指導計画が作成されています。 ・ 0歳児の個別指導計画は、「大切に育てたい力」と題して、毎月のエルマー通信に掲載しており、0歳児の保護者のみならず、他の年齢のクラスの保護者も含めて、子どもの成長を皆で見守っています。 ・ 個別の目標や計画は、週案会議や職員会議で見直しをし、子どもの状況に応じて柔軟な取り組みをしています。 ・ 子どもの健康記録、経過記録、相談記録等があり、職員はいつでも見ることができ、保育に活かすことができます。 ・ 個人情報に関する書類は、カギのついた書庫に保管されています。 ・ 保育の引継ぎや連絡事項については、職員の引継ぎノートに記入し緊密に連携をとっています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がい児の取り組みとしては、保護者の同意を得て保育士が、横浜市総合リハビリテーションセンターへ同行し、訓練に参加、保育園での障がい児保育に活かす等、上記リハビリテーションセンターとも連携を取り、努力している様子が伺えます。 ・ 保育士は、アレルギーについての研修を受けています。 ・ 保育室の床や壁を木材や漆喰壁に替えることでアレルギーのある子どもにも良い影響があるなど、様々な工夫をしています。 ・ 外国籍の子どもが在籍しています。子どもたちと一緒にその国の特徴や生活習慣について話し合う等の機会を持ち、外国への興味や関心を持たせるような取り組みを行っています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関に意見箱を設置し、第三者委員についても知らせており、さらに掲示板には苦情解決のしくみについての情報を掲示する等、保護者へは周知しています。 ・ 行事後にアンケートを取り、保護者の意見や感想を求め、保護者との意思疎通を図るよう努めています。 ・ 苦情等が出された場合は、幹部会議や職員会議で協議すると共に、内容によっては理事会で検討し、保護者会で保護者へ説明する等の仕組みがあります。



評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、ほぼ毎日戸外に出かけています。所有者の厚意により自由に入ってよいとされている広大な畑や山の広場で、子ども達は主体的にのびのびと元気一杯に遊んでおり、畑や山に馴染んでいます。 散歩や畑・山の往復には、多くの虫や鳥、花に親しみながら、園で習った歌やわらべ歌を楽しく歌う子どもたちの様子が見られます。また、地域の人と積極的に挨拶を交わし、地域に馴染んでいる様子が伺えます。 畑を借りて大根の種をまき、草取りをするなど、自然に親しんでいます。また収穫後は給食でいただくなどの経験を通して、食べ物を大切にすることを育てています。 幼児の保育室は、低い収納棚で仕切られて3クラスに分けられています。各クラスには自由におもちゃを取り出せる棚が配置され、好きな遊びができるコーナーが設けられています。また、年長児の部屋には、低くて長い棚があり、その中には粘土や紙類、お絵かき道具等が取り出しやすく収納され、子どもたちの自由な楽しいコーナーとして活かされています。 週1回リズム遊びの日を設ける他、毎月の「絵の学習会(保育士向け研修会)」の学びを活かした制作活動が行われています。 年間行事に日本古来の遊びを取り入れ、保護者からも好評を博しています。 行事等を行う際には、子どもの発想を受けとめ、出し物をいっしょに考えて工夫をし、子どもたちが行事に関心を持ち積極的に参加できるように配慮しています。
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で安心な季節の食材を取り入れ、献立は和食を中心とし、食器は和陶器が中心です。ご飯や汁物を器へよそう姿を子どもたちに見せ、食事の大切さと食事マナーを自然と身に付けさせるようにしています。 栄養士や調理員は、毎日子どもたちの食事の様子を見て献立作りに反映させています。野菜のお浸しはほぼ毎回メニューの中に入れ、汁物には5種類以上の野菜を入れるように心がけています。大根、人参、ジャガイモ等によく洗い、皮のまま調理しているので全体の残滓の量も少なくなっています。 子どもたちは、食物をよく噛んで食べています。食事マナーもよく、ご飯・おかず等はほとんどこぼさず、残すことはあまりありません。よく味わいながら食べることに集中し、落ち着いた食事風景を見ることができます。 おやつにもこだわり、ひめたらの干物やししゃもなどもメニューのひとつです。 利用者家族アンケートでは、園の給食について、その熱意と食育の取り組みが高く評価されています。 子どもたちは午前中しっかりと遊び込み、0、1歳児は、早めの午睡の後、昼食をとります。 年長児も、年間を通して午睡を一斉活動としていますが、利用者家族アンケートには不満の声が見られますので、保護者の理解を得られるよう配慮が必要です。 0、1歳児は、リースの布オムツの使用を推奨しています。




<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理に関するマニュアルがあり、日々の子どもの健康管理は、連絡ノートに細かく記入して職員間で周知しています。 ・虫歯のある子はひとりもおりません。園児は、皆、食後必ず番茶を飲み口内洗浄を行っています。歯磨き指導は5歳児のみ行っています。 ・感染症等対応マニュアルがあり、発生時は速やかに保護者に連絡をとるとともに、掲示板へ貼りだして他の保護者へ情報を伝えています。 ・職員は感染症についての研修を受け、理解しています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理に関するマニュアルがあり、マニュアルに沿って清掃表を作成、全職員で取り組んでいます。 ・食事の前には、100%電解アルカリイオン水(消毒薬)を子どもの手にスプレーし、清潔に留意しています。食中毒が発生しやすい時期には、テーブルにスプレーをし、ふきんでふき取っています。 ・子どもたちは、人形の服を洗ったりすることを通して遊びの中で清潔に保つことを学んでいます。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理に関するマニュアルがあり、不審者侵入や災害に備えた訓練を実施する等安全対策に取り組んでいます。 ・事故やケガは、些細なことでも記録にとり、原因究明と改善策の検討を実施しています。 ・外部からの侵入に対しては、防犯カメラを設置するとともに、出入り口は必ず施錠して不審者侵入に備えた取り組みを実施しています。 ・防犯対策としてセキュリティ会社と契約しています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの呼び方は、男女の区別無く「さん」付けです。 ・子どもを一人の人格を持った人間として接し、親切な対応を心がけるようにしています。 ・子どもを注意したり、叱る場合には、声のトーンを落として話しかけています。 ・個人情報の取り扱いや守秘義務については、職員間で周知しています。 ・虐待についての研修を受け、職員間で情報を共有しています。子どもの身体変化については、日々の保育の中で注意し早期発見を心がけています。
<p>- 4 保護者との交流・連携</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本方針は、入園のしおりに記載されています。また、玄関や保育室に保育理念が掲示され、保護者はいつでも見ることができます。利用者家族アンケートによれば、保護者のほぼ全員が基本方針・保育理念に共感しています。 ・全クラスで複写式の連絡帳を用いています。乳児クラスは毎日、幼児クラスでは必要ときに記入して、保護者との日常的な情報交換に役立てています。 ・個人面談を実施しており、日時については保護者の都合に合わせています。 ・行事後には、保護者へアンケートを取り、反省の材料としています。 ・保育内容や子どもの園生活等についての情報は、毎月、全家庭に配布している「エルマー通信」で伝えています。内容としては、当月・翌月の行事予定表、遊びや生活の内容も詳しく記載された各クラスの月の保育計画、行事や園での子どもの様子の報告、給食便り、献立の他、保育士や栄養士の研修会参加報告、それに歌・絵本・手遊びの紹介もあり、絵や写真を効果的に取り入れた40ページにわたる読み物です。 ・クラスごとの懇談会や年度始めに実施の合同懇談会、園の意向で年4回実施される組長会議(父親で構成されるクラス委員)など保護者との交流の場

	<p>を設定し、交流を重ねることで意思の疎通を図るように努めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の自主的なクラブ活動が数種あり、保護者のほぼ全員が参加し、交流が行われています。
--	---




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して毎週月曜日の9:30～11:00に、近くの公園で「エルマーとお日さまの会」という交流保育を行い、地域の多くの親子が気軽に参加しています。 親子遊びのヒントや子育てQ&A、子どもの発達、楽しい絵本などを掲載した「エルマー地域子育て新聞」を毎月発行し、上記交流保育の場などで配布しています。発行を続けてすでに約21年になります。 年に4～5回「赤ちゃん会」(港北区0歳児育児支援事業)に保育士を派遣、また民生委員の集まりで園長が講演するなど、地域の子育て支援事業に積極的に取り組んでいます。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 無認可保育園・横浜保育室時代も含めて、地域とともに歩む保育園として、積極的に地域の親子との関わりを作ってきました。 毎週の公園での交流保育で、保育園に通っていない地域の子どもと親に遊びを通して積極的に働きかけ、同時に相談にも応じています。 関係機関・団体等とは長年にわたり日常的に連携してきましたが、今後は、園長や熟練保育士以外にも積極的なつながりを持てるよう、関わり方をマニュアル等で明確にすることが望まれます。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長・保育士達の長年の努力により地域住民と親しくなり、いまや子どもたちは地域の子どもとして、すっかり溶け込んでいます。ほぼ毎日の公園や畑への往復の際には、地域の多くの方と和やかにあいさつを交わしています。 ・ 所有者の厚意により、近くの広大な畑・山を自由に子どもたちの遊びに使わせてもらっています。また、園舎の斜向かいに、図書室を備えた外遊びの空間も借りています。 ・ 「エルマーを支える会」主催のバザーや味噌づくり・ひな祭りなどの季節の行事に、町内会や地域の高齢者を招待しています。 ・ 町内会の運動会、近くの神社の豆まき、近隣企業の夏祭りなどに毎年参加しています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園のしおりや区社協の会報等で、サービス内容などの必要な情報を提供しています。 ・ 利用希望者に対しては、まずは交流保育「エルマーとお日さまの会」に参加して様子を感じて欲しいと伝えています。 ・ 見学者の希望に合わせて日程を調整し、子どもの年齢に応じた試食の機会も提供しています。 ・ 食への取り組みに関して、雑誌に掲載されたことがあります。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習生の受け入れについては、効果的な学習が行われるように、早番・中番・遅番とそれぞれ異なる保育時間や異なる年齢を体験できるようにしています。 ・ ボランティアの受け入れマニュアルがあり受け入れ体制はありますが、本年度の受け入れ実績はありません。 ・ 実習生・ボランティア共に、受け入れ意義を改めて認識し、更に積極的に受け入れ、記録等も整備することが望まれます。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、業務に当たっては常勤・非常勤の組み合わせに配慮し、必要な研修は区別なく受けられるようになっています。 内部研修として「新人職員研修会」「中堅職員研修会」が各年1回設定され、ソーシャルワークを学んでいます。また、絵の学習会が毎月行われています。 外部研修としては、「保育団体合同研修会」「全国給食セミナー」「わらべ歌共同勉強会」をはじめ、市主催の研修会へも積極的に参加しています。 研修の成果は職員会議で報告される他、毎月保護者に配布している「エルマー通信」の中でも詳しく報告されています。 今年度から自己達成度評価を始めたところですので、今後は園として、人材育成のビジョンを持って計画的な人材育成に取り組むことが更に望まれます。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> クラス会議においてサービスの見直しを行い、これを個々の職員のスキルの問題として自己評価を行っています。 情報の公開の方法について学んだ成果を「エルマー通信」に反映させるなど、園全体で技術の向上に取り組んでいます。 外部講師によるソーシャルワーク研修会でロールプレイを取り入れるなどして、保育技術の研鑽に励んでいます。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの個性が生きるポジションを各職員に与えるよう、園長は努めています。 日々の業務の中で取り組むべき課題などが出てきた時には、各々のプロジェクトを結成し、全職員が率先して業務の遂行・改善に取り組めるように配慮しています。 会議について職員にアンケートをとり、持ち方や記録のとり方を変更するなど、現場の職員が積極的に業務改善を提案・実施しています。 職員ニーズの把握のために、園への要望をアンケートや面接で聞いています。 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、職員のやりがいや満足度が更に高められることが望まれます。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の理念の第1項として「児童福祉法に基づき、乳幼児の保育を行います」と歌い、全職員に「全国保育士会倫理綱領誓約書」に署名・捺印させるなど、事業者として守るべき法・倫理を周知・実行しています。 ・ 年度当初の職員会議で、市・区の保育行政の状況と併せて園の経営・運営状況を園長が報告しています。 ・ 節電・節水等を心掛け、野菜はできるだけ皮付きのまま調理し、布オムツの使用を推奨するなど、ゴミの減量化にも配慮しています。 ・ 今後は環境配慮の考え方を方針や目標の中に位置付けることが望まれます。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長のリーダーシップの下、各職員の適正を見極めた職員配置がなされています。 ・ 理念・方針は玄関や職員用トイレに掲示されています。また、毎月の職員会議で唱和し、これに沿って保育が実践されるよう、園長・主任が指導しています。 ・ 主任は、フリーの立場で各クラスを見回することで業務状況を把握し、必要に応じて個々の職員を支援しています。 ・ 重要な意思決定にあたっては、保護者への十分な説明と互いの理解が欠かせません。園の姿勢の検討が望まれます。 ・ 今後は、スーパーバイズできる主任クラスの育成が、計画的に行われることが望まれます。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業運営に影響のある情報、例えば国・横浜市・NPO等の情勢の変化については、理事も含めて幹部会議で協議しています。 ・ 次代の組織運営に備え、意思決定に関する方式をトップダウンからボトムアップへ転換を図っています。 ・ 今後、重要な改善課題等についても、園全体の課題として取り組む体制づくりが望まれます。

利用者家族アンケート 分析

- 実施期間 2006年1月13日～1月25日
- 実施方法 事業者から直接利用者家族に配付（手渡し）
- 回収率 約95.8%（48枚配付、46枚回収）
- 所属クラス 0歳児...7人、1歳児...10人、2歳児...10人、3歳児...7人、4歳児...5人、5歳児...7人
複数名が在籍の場合には下の児童のクラスですが、記入間違いがあるようです（実際の所属人数と合いません）。

結果の特徴

- 【問1】 **保育目標や保育方針**は、アンケートに回答したすべての保護者が知っており、そのうちの95.7%が共感できると答えていることから、当園の保育は、ほぼすべての保護者の賛同を得て実践されていると言えます。 数値は「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたもの。以下同様。
- 【問2】 **入園時の対応**については、他の問に比べて「その他」および「無回答」が多いですが、自由記入意見によるとそれは、現在所属している子どもが第二・第三子のために特に見学をしなかった、などの理由によるようです。ただし、「費用やきまりに関する説明」に関しては、雑費の徴収など金銭に関する説明不足が伺われます。
- 【問3】 **年間計画**については、保育や行事についての説明にはほぼ満足しているものの、「保護者の要望が活かされている」については、季節の行事を取り入れ人間性を育ててくれる、という評価の声が多くある一方で、意義や回数についての意見が見られます。
- 【問4】 **日常の保育内容の遊び**については、すべての項目で9割以上の保護者が満足しており、自然の中でのびのびと遊べる、伝承遊びや子どもの発達に合わせたおもちゃの充実等の賛辞の声が多く見られます。**生活**については、給食に対する満足度が高く、食に対する熱意や食育への賛辞の声が多くあります。また、布オムツ使用への賛同意見も見られます。一方、「昼寝や休息」に関しては、年中・年長児の昼寝時間の長さに対する不満が見受けられます。園の意向の更なるていねいな説明や、個別の対応などが求められるところです。
- 【問5】 **快適さや安全対策**については「園舎・園庭などの施設」について3割の保護者が不満と回答しており、駐車スペース程度の園庭に対する不満が見受けられます。園もこの点は認識しており、園舎のすぐそばに園庭に代わる砂場・図書スペースを借り、公園に出かけ、山や畑等へできるだけ行くなどの工夫・努力をしています。
- 【問6】 **園と保護者の連携・交流**については、「園の様子や行事に関する情報提供」への満足度は高いものの、「話し合いの機会」や「お迎えが遅くなる場合の対応」についての不満が見受けられます。保護者の思いに寄り添い、理解を得るためのさらなる工夫が望まれます。
- 【問7】 **職員の対応**については、「子どもが大切にされている」「園生活を楽しんでいる」についての満足度が高く、保育士は温かく誠意を持って保育に当たってくれているなどの声があります。一方、「不満や要望を気軽に言えるか」「不満や要望への対応」については、3割近い保護者に不満が見られます。要望への返答がない、反論される等の声があり、検討が望まれます。
- 【問8】 **総合満足度**は93.5%と高いです。
- 【問9】 **園への要望等**としては、保育士の交代の多さについて不安の声があると同時に健康を気遣う声があります。また、保育については素晴らしいとの声がある一方で、事務の強化・経営の透明性等を求める声があり、対応がのぞまれます。

満足度の高かった点

- ◇ 保育内容の「遊び」についての各項目の満足度が軒並み高く、100%が「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動」「給食のメニューの充実」、次いで「給食を楽しんでいる」(97.8%)、「おもちゃや教材が自由に使える」「遊びを通した友だちとの関わり・保育士との関係」「遊びを通した健康づくりへの取り組み」(95.7%)です。
- ◇ 他の項目では「子どもが大切にされている」(97.8%)「園の様子や行事に関する情報提供」(95.7%)です。

満足度のやや低かった点

数値は「不満」「どちらかといえば不満」を合わせたもの。

- ◇ 最も不満の多いのは「園舎・園庭の施設」(30.4%)、「不満や要望を気軽に言えるか」「不満や要望への対応」(28.3%)、「費用やきまりに関する説明」(26.1%)、「不審者侵入に対する備え」(23.9%)、「昼寝や休息への対応」(21.8%)です。

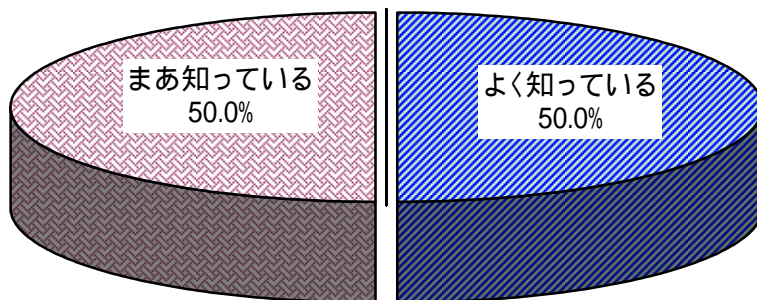
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

保育園の保育目標・保育方針を知っていますか



- よく知っている
- まあ知っている
- どちらとも言えない
- あまり知らない
- まったく知らない
- 無回答

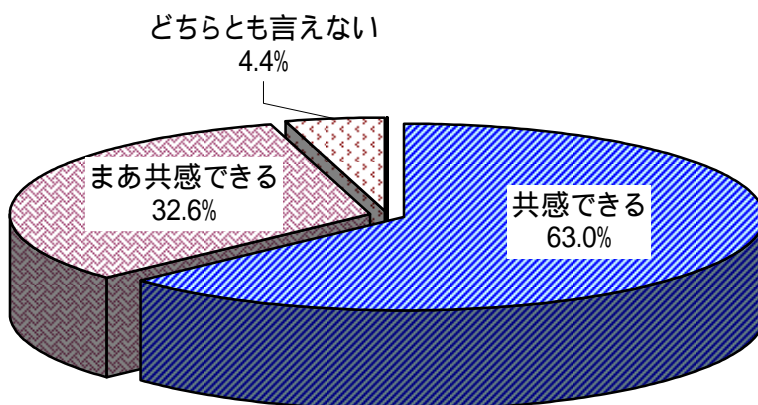
「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	共感できる	まあ共感できる	どちらとも言えない	あまり共感できない	共感できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	63.0	32.6	4.4	0.0	0.0	0.0	100

保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか



- 共感できる
- まあ共感できる
- どちらとも言えない
- あまり共感できない
- 共感できない
- 無回答

保育園のサービス内容について

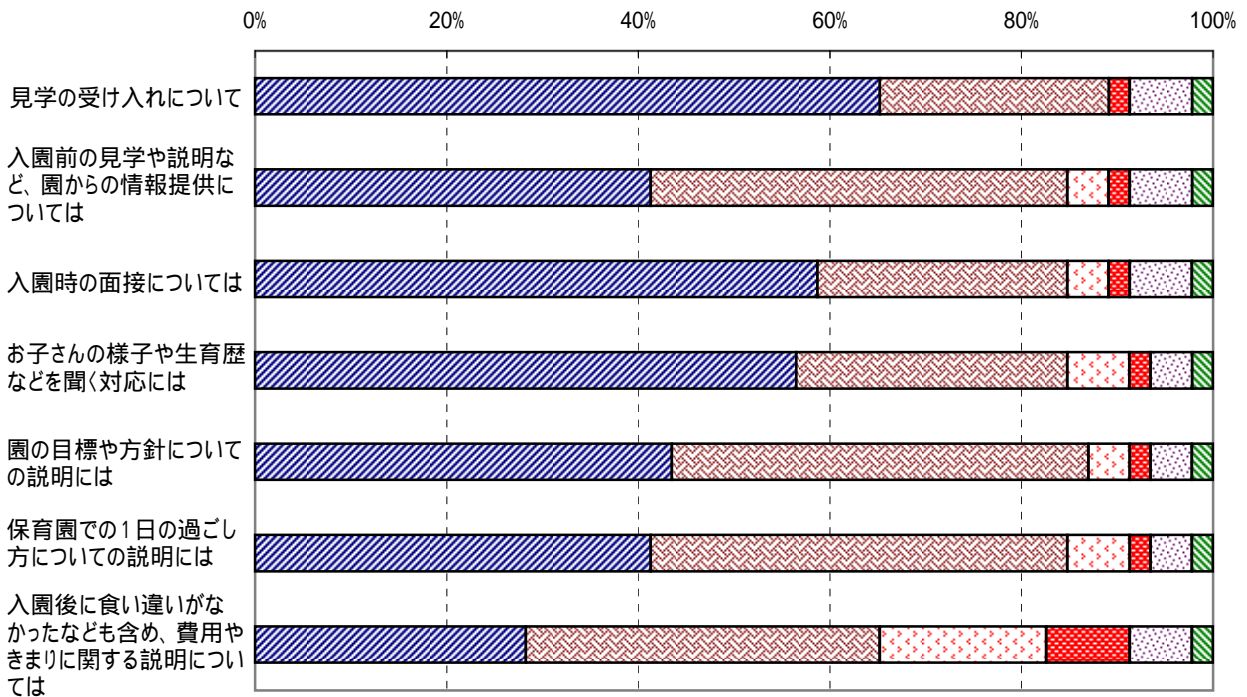
問2 入園時の状況について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	65.2	23.9	0.0	2.2	6.5	2.2	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	41.3	43.5	4.3	2.2	6.5	2.2	100
入園時の面接については	58.7	26.1	4.3	2.2	6.5	2.2	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	56.5	28.3	6.5	2.2	4.4	2.2	100
園の目標や方針についての説明には	43.5	43.5	4.3	2.2	4.3	2.2	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	41.3	43.5	6.5	2.2	4.3	2.2	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	28.3	37.0	17.4	8.7	6.5	2.2	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答



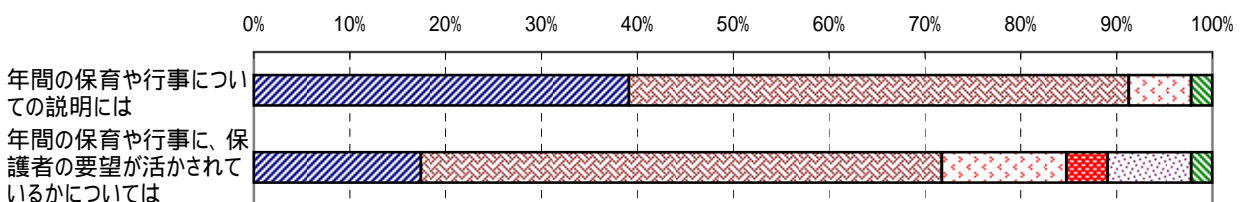
問3 年間の計画について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	39.1	52.2	6.5	0.0	0.0	2.2	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	17.4	54.3	13.0	4.3	8.7	2.2	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

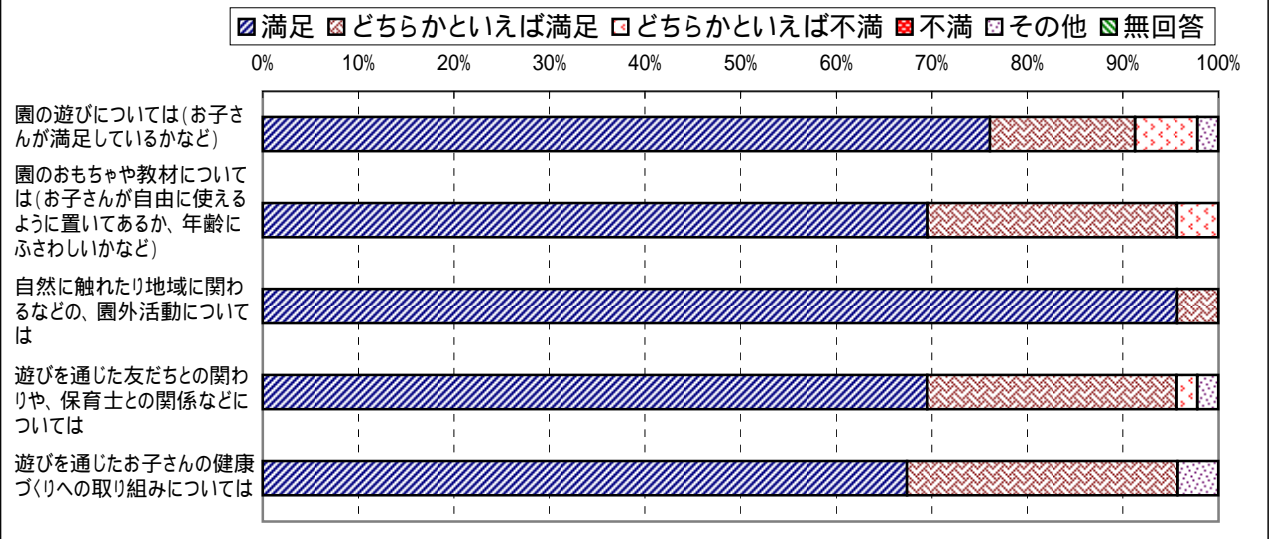


問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	76.1	15.2	6.5	0.0	2.2	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	69.6	26.1	4.4	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	95.7	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	69.6	26.1	2.2	0.0	2.2	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	67.4	28.3	0.0	0.0	4.3	0.0	100

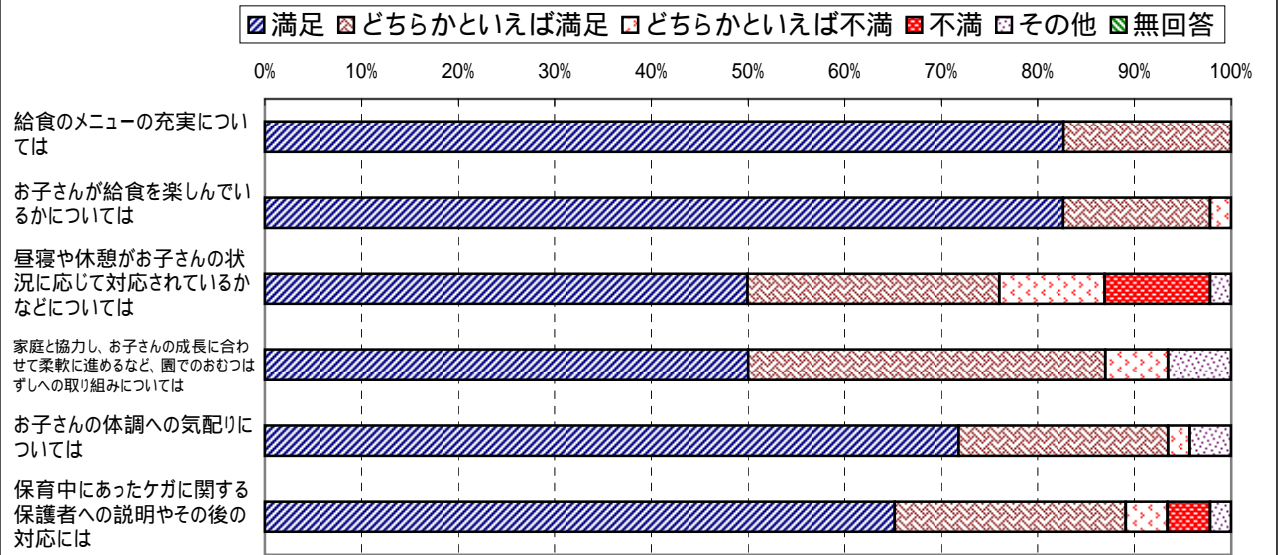
日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食のメニューの充実については	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	82.6	15.2	2.2	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	50.0	26.1	10.9	10.9	2.2	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	50.0	37.0	6.5	0.0	6.5	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	71.7	21.7	2.2	0.0	4.3	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	65.2	23.9	4.4	4.4	2.2	0.0	100

日常の保育内容「生活」について



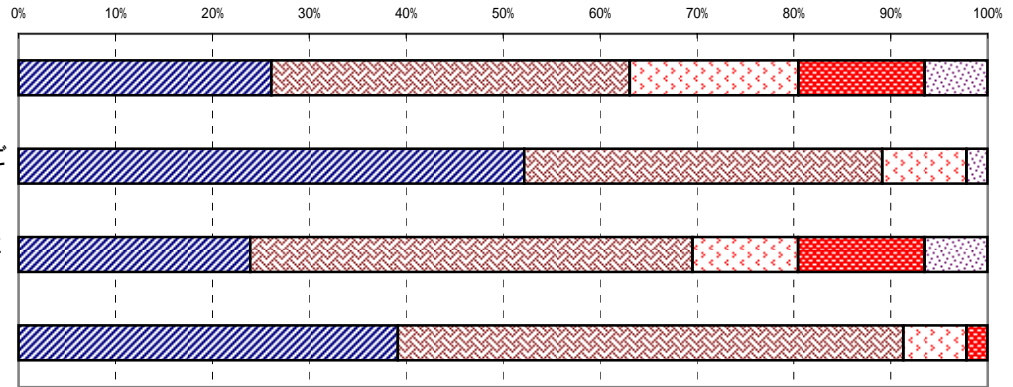
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	26.1	37.0	17.4	13.0	6.5	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	52.2	37.0	8.7	0.0	2.2	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	23.9	45.7	10.9	13.0	6.5	0.0	100
衛生管理や感染症対策については	39.1	52.2	6.5	2.2	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



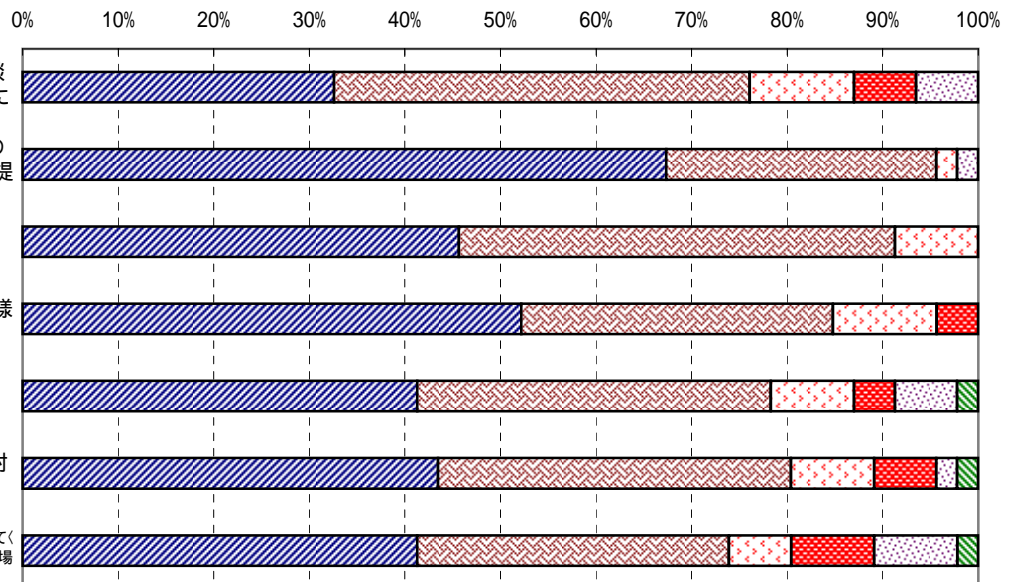
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	32.6	43.5	10.9	6.5	6.5	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	67.4	28.3	2.2	0.0	2.2	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	45.7	45.7	8.7	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	52.2	32.6	10.9	4.4	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	41.3	37.0	8.7	4.3	6.5	2.2	100
保護者からの相談事への対応には	43.5	37.0	8.7	6.5	2.2	2.2	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	41.3	32.6	6.5	8.7	8.7	2.2	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

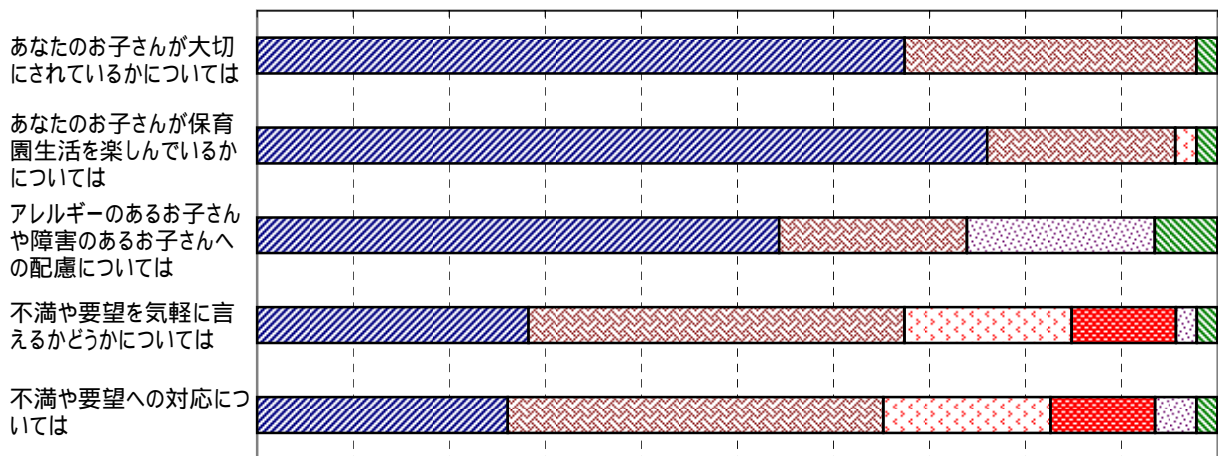
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	67.4	30.4	0.0	0.0	0.0	2.2	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	76.1	19.6	2.2	0.0	0.0	2.2	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	54.3	19.6	0.0	0.0	19.6	6.5	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	28.3	39.1	17.4	10.9	2.2	2.2	100
不満や要望への対応については	26.1	39.1	17.4	10.9	4.3	2.2	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

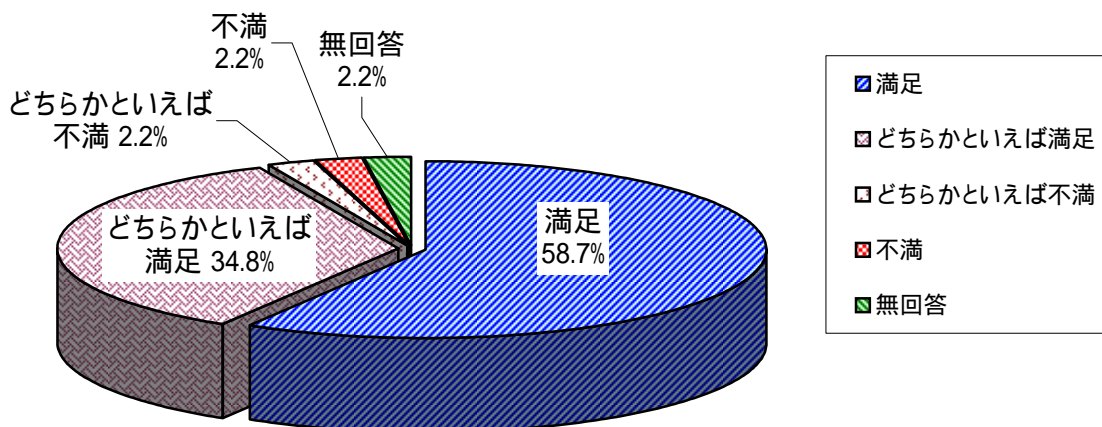


問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	58.7	34.8	2.2	2.2	2.2	100

総合満足度



利用者本人調査 分析

観察調査 2006年2月23日(木) 9:00~17:20 2月26日(月) 9:10~12:30

聞き取り調査 2006年2月23日(木) 12:30~13:30

4、5歳児クラスの計15名を3グループに分けて、玄関ホールで実施

1. 遊びについて

観察調査

- ・ 戸外に出掛ける際には、4、5歳児は歩きますが、3歳以下の子供達は、道中の道幅が狭いので安全性を重視してお出かけカートに乗り目的地まで行きます。
- ・ 主な戸外遊びの場所は、近くの砂場、公園、15分先にある畑、30分先にある山と畑です。
- ・ 0、1歳児は、公園で保育士と一緒にボールけりやかけっこをして遊びました。別の組の0、1歳児は15分先にある畑で、穴掘りや土いじりをし、保育士とかけっこをして遊びました。楽しそうな笑い声が聞こえていました。
- ・ 3、4、5歳児は、山へ行く途中の道で、てんとう虫や蜘蛛、ふきのとうの群生を見たり、梅の花の香りをかいだり、池で鴨が泳ぐのを眺めたりしました。3歳児は山の畑でかけっこ、穴掘り、相撲ごっこを楽しみ、4、5歳児は山の広場で、鬼ごっこやリレーをしました。鬼ごっこは皆大好きで何度も何度も繰り返して行いました。帰り道は、皆満足した表情をしていました。
- ・ 午後の外遊びは、全員近くの砂場で遊び、小山を作ったり、ままごとをしたり、光る泥だんご作りをしました。年長児は、保育士の声かけで片づけを始めましたが、いつの間にか流れ作業のように役割分担ができ、自主的に泥を洗ったり片付けたりしていました。

聞き取り調査

- ・ 外遊びでは、おいかげっこ、狼さん今何時、猫とねずみ、泥だんご作りが好きと答えました。
- ・ 室内遊びでは、ぬいぐるみ、人形遊び、折り紙、お絵かき、ままごとが好きと答えました。

2. 食事について

観察調査

- ・ 0、1歳児は、午前11時30分から午後1時ごろまで午睡をした後が昼食の時間でした。保育士が人参、大根などの話をして食事に関心を持たせていました。食事は3~4名の少人数で食べていました。
- ・ 1、2歳児は、集中して食べていました。野菜類もよく噛み、おかわりをし、食欲旺盛でした。食事中は落ち着いており、食べこぼしもほとんどありませんでした。
- ・ 3、4、5歳児は、おしゃべりしながら楽しく食べていました。よく食べ、おかわりもし、残さずにきれいに食べていました。大勢の子どもがおかわりしたので、すでにおかわりがなくて残念がる子どももいました。(当日のメニューは雑穀ご飯、たらのから揚げ、具だくさんの味噌汁、里芋の煮物、青梗菜のしらす和え)
- ・ 栄養士や調理員は、交代で保育室に来て食事時の子どもの様子を見たり話しかけたりしていました。

聞き取り調査

- ・ 保育園の食事はおいしいと皆が答えました。おかわりをするという子がほとんどでした。好きなメニューはお汁、ご飯、うどん、芋、ししゃも等です。嫌いなものは、人参、トマト、ブロッコリー等で残すこともできるが、食べるという子どももいました。

3. 排泄について

観察調査

- ・ 次の活動に入る前や外から戻ったときには、保育士の声かけでトイレへ行っていました。
- ・ 乳児クラスは、布オムツをしている子どもがいました。紙パンツをはいている組では、保育士と一緒にトイレへ行き、用を済ませた後は手を洗いました。

- ・ 幼児クラスは、自由にトイレへ行きました。

聞き取り調査

- ・ トイレへは自由に行く、ウンチは自分でふける、おもしろいししないと答えました。

4. 清潔・健康について

観察調査

- ・ 砂場や畑で遊んだ後は、手を洗い、乳児の場合は、濡れタオルで汚れを落としました。
- ・ 園に戻ってから、汚れた服を着替え、石鹸でもう一度手を洗い、うがいをしました。幼児クラスの子どもたちは慣れているようで、保育士の声かけもあまり無く、すすんで着替えたりうがいや手洗いをしていました。
- ・ 保育士は、食事前に 100%電解アルカリイオン水（消毒液）がしみ込んだ台ふきんでテーブルを拭きました。子どもたちも手を洗った後に、そのスプレーをかけてもらっていました。

聞き取り調査

- ・ 汗をかいたら自分で着替えると言いました。具合が悪いときは先生に言う、先生は休ませてくれると言いました。
- ・ 怪我をした時は、先生に言って消毒してもらったり、テープを貼ってもらうと答えました。

5. いやな思いへの対応や権利を守ることについて

観察調査

- ・ 友だちの指が目当たった子どもがいましたが、両者の自然なやりとりで収まりました。
- ・ 砂をかけた子どもがいましたが、保育士は仲間から離れた所に連れて行き静かに諭していました。

聞き取り調査

- ・ けんかをしたときは、ごめんねと言ってあやまり仲よしになる、と答えました。
- ・ 名前は、さん付けで呼ばれています。
- ・ 昼寝はしている、眠たくない時はごろんとしている、寝ないで静かに本を読む時もあると答えました。

6. 職員について

観察調査

- ・ 年少児クラスでは、いつでも子どもたちの中心に保育士が居て、子どもの目の高さで接し、耳を寄せて子どもの話を聞いていました。子どもたちが保育士を信頼している様子が伺えました。
- ・ 3歳児クラスでは、保育士と子どもは互いに信頼し合い、ごく自然な関係を築いているように見受けられました。保育士は、必要なときに援助し、そうでないときは子どもの自主性に任せて見守っていました。

聞き取り調査

- ・ 先生はやさしい、と答えました。
- ・ 園長先生とは川崎の市民プールへ行った時に遊んだ、新聞紙を丸めて遊んだこともある、と言いました。

まとめ

子どもたちはのびのびと園生活を送っています。園庭が狭いものの、地域の方の協力を得て畑や山での遊びを十分に味わうことができ、その道中では四季折々の自然に触れることができるという恵まれた環境にあります。保育士は大声を出すことも無く、子どもたちと信頼で結ばれているように見受けられました。給食は、どの子どももマナーよく、味わって食べていました。

子ども同士のけんかは少なく、互いに教えあったり手伝ったり、仲良くほほえましい様子でした。子どもも保育士も、全体的におだやかな印象を受けました。

事業者意見

開所二年目で第三者評価を受けました。園内をもう少し充実させてから受審をしたらどうかという意見もありましたが第三者評価を受け、いろいろなアドバイスをいただきながら前進していこうと積極的に取り組むことにしました。職員は共通理解をもち、心を一つにして第三者評価に望みました。

園がこれまで、掲げてきた保育理念を再確認すると共に普段行っている日々の保育を見つめ直すよい機会となりました。また、第三者評価を進める中で評価項目に全て当てはまれば優れているかということ、日々の保育は常に変化しており、答えも一つでは推し量れないということに気がつきました。

また、保護者の皆様からのアンケートが 95.8%という高い回収率で、その中でも自然食品を使った給食と山や畑での自然保育が 100%の支持があり、これまでよりよい保育をめざして行ってきたことが評価されたと、職員一同感激しました。

これから第三者評価を受審することによって得られた良い点、工夫していかなければならない点を分析し、日頃の保育に活かして行きたいと思えます。

市民セクターよこはまの評価調査員の皆様には園がさらに発展していくようにと厳しくも温かいまなざしで終始アドバイスをいただき、とても感謝しております。

評価調査員の方が利用者本人調査の分析の中で「子どもたちはのびのびと園生活を送っています。(中略)保育士は大声を出すことも無く、子どもたちと信頼で結ばれているように見受けられました。」とのコメントがありました。保育園が取り組むべき課題が多く、そして難しくなっている今、私たちの園をこのように評価して下さったことを励みに次の課題に向かって進んで行きたいと思えます。